

O.S.P. Journal

OSP
OSPREY
SPIRITUAL
PERFORMER

無料

ご自由にお取りください

水面炸裂の
興奮を
アナタにも!
ラウダーシリーズ
by マシュー



チェイスから
バイトまで
興奮の連続!!
ペントミノ
シリーズ
by 辻井伸之



小魚を追う
バスに
効果てきめん!!
ハイカットF
by 北田朋也

あらゆるシーンで
大活躍のアイテム
ハイピッチャーMAX
by 浦川正則



巻いて釣れ!!

～秋の巻き物パーフェクトガイド～

広大な
水域から
確実に
バスを呼ぶ!
YAMATO
O.S.Pシリーズ
by 森田哲広



ただ巻くだけで
勝手に仕事を
してくれる!
ブリッツ
by 山添大介



2016年H-1グランプリの覇者

オリキンが説く
秋の巻き物
ローテーション

9人のプロスタッフが

徹底 解説



随一の爆音で
水面まで誘き出す!!
O.S.Pバス02ビート
by 富村貴明



驚きの結果をもたらす
巻き物の新境地!
O.S.Pブレードジグ
by 松村寛

水面炸裂の興奮をアナタにも! ラウダーシリーズ by マシュー

ラウダーの特徴と使い方

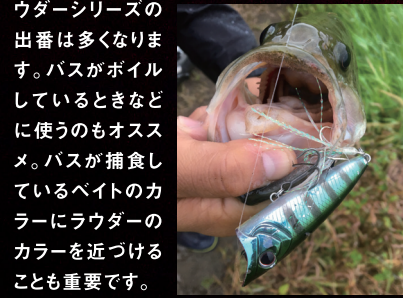
ラウダーは60で8.4g、70で12gと自重があり、キャストコントロールがとてもしやすいのが大きなメリットです。ラウダー70であればML~Mクラスのロッドで難なくキャストができます。形状面ではロングノーズが特徴。立ち気味の浮き姿勢になり、艶かしいポップ音でバスを誘い出すことができます。また上顎のブレイクウォーター構造で水柱を前方に上げて広範囲にアピール。これら構造でバスのバイトを効果的にアップさせることが最大の魅力です。

使い方ですが、ボクはフロロカーボン(メインは12lb)を使用。ラインの重さを使って下向きのポップ音を出したいのと、キャストコントロールを重視したい点、そして掛けたあとに早く寄せたいので、このセッティングになっています。ロッドアクションは手前に引いたり、横にトウイチしたりとさまざま。場所、場所で小さく動かしたり、アピールさせるために大きく動かしたりすると、バスからの反応は得られやすくなります。

ラウダーの出どころ

ラウダーは水門のシェード、水門まわり、杭、ブ

レイクライン、アシ際そして水路など、さまざまな場所で使えます。最も使用頻度が高いのが「ローライト+雨」。このときのバスは、気圧によって浮気味になり、雨の影響で意識が表層に向くことが多くあります。そんなときにラウダーシリーズがバッチリ! ハマってくれます。朝夕のマヅメ時もバスの意識が表層に向くのでラウダーシリーズの出番は多くなります。バスがボイルしているときなどに使うのもオススメ。バスが捕食しているベイトのカラーにラウダーのカラーを近づけることも重要です。



ラウダーでデカバスを獲る秘密

難しい質問ですね(笑)。ボクのアクションは「ポコ、ポコ、ステイ」の繰り返しです。着水後は10秒くらい放置。そのあとの1アクションに注意。最も神経を使うところです。あとはオーバーハンクやシェードの切れ目を狙って動かしていくこと。バスが捕食しているベイトにカラーを合わせてあげることですね。今年1番のラウダーでのビックバスは48cm・1800gくらいでした。カラーは「ツレスギル」。そのエリアのメインベイトはギル。プラスの要素としてインレット。この条件で何本もの40cmアップをゲットしています。今まで使ったトップウォータールアーの中で1番の釣果を叩き出すことができているのがラウダーシリーズです。ラウダーシリーズを使ってもらえれば、ビッグバスを表層に誘い出すことができます。バイトが見えるって興奮しますよ!!



ハイピッチャーMAXでデカバスを獲る秘密

特に3/8ozに関しては、ブレードの揚力とヘッドウエイトがギリギリのバランスになっていて、水中で極めてスローにフワフワと巻いてこれます。スピナーベイトはタフな時に非常に強いルアーとのイメージがありますが、この3/8ozは特に速いスピードについてこれないコンディションでもデッドスローで巻けることにより、魚を浮かせて食わせる力のあるルアーだと思えます。特に足場の限定されるオカッパリからは、デカバスには欠かせない性能だと思えます。ぜひ、お試しください。



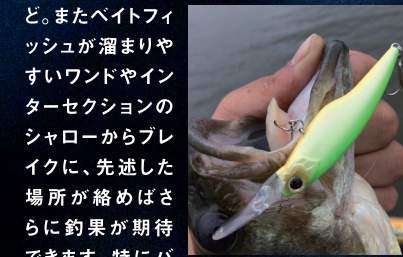
小魚を追うバスに効果てきめん!! ハイカットF by 北田朋也

ハイカットFの特徴と使い方

霞ヶ浦のシャローでは甲殻類が減少し、ベイトフィッシュを追うことに執着するバスが多くなり始めるとシャッドの季節到来です。その中でもハイカットFはその両立に優れており、ラウンド形状のリップによる回避能力、姿勢復元力と低重心固定ウエイトが可能にする速巻きはボトムの見えない霞ヶ浦水系ではかなりのアドバンテージをアングラーに与えてくれます。使い方としては、基本はLアクションのスピニングにフロロ4~5lbをセットして中層を速巻き。このとき、ドラグは少し緩めに設定しておき、急なバイトや身切れに備えましょう。速巻きでバイトがない時は、何かにコンタクトしたあとにステイさせるのも有効。さらに速く巻いてリアクションバイトを狙うのもいいでしょう。またローライトの日やシェードを通す場合は一度ポーズをとってから、ジャークやトウイチを入れることでバスからの反応が得られることがあります。

ハイカットFの出どころ

ハイカットFをよく使う場所は広く水没している消波ブロックやリップラップ、長い垂直護岸な

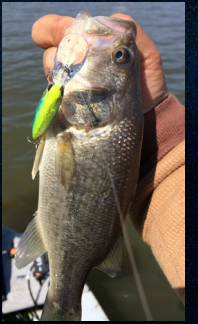


ど。またベイトフィッシュが溜まりやすいワンドやインターセクションのシャローからブレイクに、先述した場所が絡めばさらに釣果が期待できます。特にバスはいるけれど、エビやゴリ系を意識したルアーに反応がない時やバイトが少ない時は、バスがベイトフィッシュを中心に捕食している可能性が高いので、広範囲に探ることができて食わせられるハイカットの出番です!

ハイカットFでデカバスを獲る秘密

私の中で、ハイカットFでデカバスの実績が高

い釣り方は、リップラップや水没している消波ブロックにある縦ストやインターセクション出口の角など、ピンスポットでの中層高速巻きです。ちょっと速過ぎると感じるくらいのスピードでリトリブすることがキモ。バランスのいいハイカットは高速巻きでも姿勢を崩すことなく巻くことができ、タイトアクションが気難しいデカバスのリアクションバイトを誘発します。コツは同じピンスポットをリトリブ方向を変えながら何度も通し、バスが反応する角度を調節すること。これで反応していなかったバスがバイトすることが多々あります。



あらゆるシーンで大活躍のアイテム ハイピッチャーMAX by 浦川正則

ハイピッチャーMAXの特徴と使い方

ハイピッチャーMAXはレギュラーサイズのスピナーベイトでありながら、高回転でレスポンスのいい大型のブレードが備わっており、スローに巻くことの多いこのカテゴリーのルアーの中では非常に使用感をイメージしやすいのが特徴です。またオリジナルのカットをされているスカートも、ナチュラルなアピール力はもちろんですが、ストラクチャーにタイトに投げる際も、キャストタビリーの向上にも非常に大きく貢献してくれており、オカッパリでも非常に使いやすいアイテムです。基本的には投げて巻くだけで十分なルアーですが、ハイピッチャーMAXのアピール力を活かした使い方としてシャローでよくやるのが、ブレードがギリギリ見えるレンジを巻いてくる“中層トレース”です。シャローでのフィーディングの魚を素早く広範囲に探るのにかなり多用していて、年間を通じていい魚が釣れる使い方です。

ハイピッチャーMAXの出どころ

出どころについてですが、通すことができないヘビーカバー以外は、どんな場所でも使えます。

スピナーベイトは特にレンジを容易に変えられるルアーですので、いち早くその日の魚の状態やポジション、レンジを知りたい釣りはじめの時は特に多用しています。またハイピッチャーMAXは、アピール力が非常にあるスピナーベイトですので、風が強い日でもしっかりした抵抗感があって扱いやすく、ハードルアーが有効に機能するやや濁りが入ったタイミングやローライトなタイミング、ベイトがたくさんいるエリアなどでは特に、投げるべきタイミングかと思えます。



ハイピッチャーMAXでデカバスを獲る秘密

特に3/8ozに関しては、ブレードの揚力とヘッドウエイトがギリギリのバランスになっていて、水中で極めてスローにフワフワと巻いてこれます。スピナーベイトはタフな時に非常に強いルアーとのイメージがありますが、この3/8ozは特に速いスピードについてこれないコンディションでもデッドスローで巻けることにより、魚を浮かせて食わせる力のあるルアーだと思えます。特に足場の限定されるオカッパリからは、デカバスには欠かせない性能だと思えます。ぜひ、お試しください。

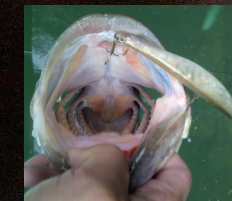
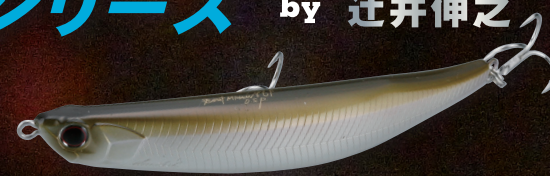
チェイスからバイトまで興奮の連続!! ベントミノーシリーズ by 辻井伸之

ベントミノーシリーズの特徴と使い方

ベントミノーは弱りきった小魚のようなシルエットで、バスからターゲットにされやすいルアーです。トップウォーターからサブサーフェスのレンジで3Dアクションと呼ばれるトリッキーな動きと相まって、チェイスがはじまるとバイトするまで見切られにくい特徴があります。特に86Fや76Fといった小さめのサイズはバスも捕食しやすい、タフコンディション下でも釣果を得やすいハードプラグのひとつとなっています。使い方については通常のミノーと同様に2~3トウイチ&ポーズが基本ですが、ハイスピードのノンストップ連続ジャークで逃げ惑う小魚を演出することも多いです。また、アクションが複雑なので移動距離を抑えたピンポイントでのアプローチも得意で、ここぞというスポットでは水面でネチネチと時間を掛けてバスが浮き上がってくるのを待ちます。この際、より繊細に扱えるよう、通常よりもワンランク細い低伸度ラインで、ラインを軽く張る程度に動かすといでしょう。

ベントミノーシリーズの出どころ

シチュエーションを選ばず使えるというもペン



トミノーの大きな特徴ですが、大まかに水温がまだまだ高い時期は水の動きのある縦ストラクチャーまわりをスローに探り、水温が下がりはじめて適水温に近づくにつれて、フィーディングシャローを手早く探るのが中心になっていきます。また、バスの視線が水面に向いているのにトップウォータープラグではなかなか飛び出さないというシーンでは水面直下にダイブさせることができる点も、ベントミノーの強さを最も感じる瞬間です。

ベントミノーシリーズでデカバスを獲る秘密

難しいことは何もなく、普通にキャストして使っているだけで警戒心の強いビッグフィッシュも

躊躇なくバイトしてしまうので、これと言った秘密はありませんが…… ただひとつだけ気をつけている点として、キャスト後の着水は水面にふわりと乗せるような気持ちで極力ソフトなアプローチになるよう心掛けています。ベントミノーの形状から水面に刺さるような着水になりがちですが、その点を意識してみればいかがでしょうか。



2016年H-1グランプリの覇者

オリキンが説く 秋の巻き物

ローテーション



水温が20℃前後で秋本番!

朝晩は涼しさが感じられるものの、日中は晴れば暑い日も。フィールドに出るといよいよ、秋の到来を感じさせられます。そして水温が20℃前後になってくると秋本番。楽しい巻き物の釣りが楽しめるようになります。

さて、巻き物といってもその種類はさまざま。そこで今回は巻き物の使い分けを、日ごとの状況と季節の進行に合わせてご紹介しましょう。

バスにとって適水温である20℃前後になると、その行動域はミドルレンジからディープまで広範囲に散る傾向が強まります。また湖やエリアごとでメインベイトがどのレンジにいるのか、エリアの雰囲気や魚探の映像での見極めが重要になります。サカナの気配が感じられなければ、さっさと見切りをつけましょう。

さらに、これとあわせて指標となるのが、水温の変動と水質です。急な冷え込みなどで水温が低下したならば、水深のあるエリアやその付近にあるオダ状の障害物。シャローではマンメイドストラクチャーや密集した濃いカバーなどが定番となります。

次に水質については、雨による濁りとターンオーバーによる悪化を考えなくてはなりません。基本はこの影響が及んでいないエリアを攻めるのが王道。ルアーについてはサイズやカラーでアジャストしていきます。

ここで肝心なのが、水温と水質の兼ね合い。同じような濁りの度合いでも、冷え込んでからどのくらい経つのか。日中、水温が上がるのかなどを加味したうえでルアーをセレクトしなければならぬのが秋の難しさでもあります。

ハイピッチャーマックス

まずは最悪の水温低下、水質悪化のダブルパンチ。そんなとき、巻き物で可能性のあ

る釣りをするならば、ゆっくりと動きながらも力強いフラッシングを発するルアーが最悪の状況を打開する一歩です。そこでオススメしたいのは、ハイピッチャーマックス。ブレードの水噛みと立ち上がりがよく、スピードを抑えながらしっかりストラクチャーにコンタクトさせることができるため、バイトチャンスを広げることが可能です。また引き心地も軽いため、わずかなショートバイトも感じられることや、ルアーの抵抗がフッキングスピードを阻害せず、素早くフッキングに持ち込めることも大きな利点です。



ハイピッチャーマックス

キモはしっかりボトムを感じながら引くことや、高い起伏を越えたあとにはロッド操作で少し送り込むなど、リールで巻きつつも、ロッドメンディングで細かなトレースラインの調整をしましょう。ちなみに水深別のウエイトの使い分けは3/8オンスは2m、1/2オンスが3m、5/8オンスで4m、3/4オンスなら5mが目安です。あとは必要に応じてリトリブスピードで、攻める水深とルアーウエイトを使い分ければバッチリです。

ラトリンブリッツシリーズ

次は雨が降った翌日や日中は晴れた夕方など、水温が上がってバスのやる気はあるものの、濁りの影響で視界が悪く、モノにタイトにつきながらエサ



ラトリンブリッツMAX

を捕食しようとしている場合。ここでは水温が上昇しやすいシャローレンジが狙いどころとなり、強い波動のモノに果敢にアタックしてくるので、ルアーはラトリンブリッツ、もしくはラトリンブリッツマックスをチョイス。濁りの中でもブリッツシリーズならではのハイピッチアクションとラトル音がバスを引っ張り出します。

しっかりとストラクチャーにコンタクトさせる使い方が基本ですが、ときに速めのリトリブスピードでコースを変えてみるのも手です。



その他のローテーション理論

そして時間が経つにつれ、水質も回復し、水温も安定してくると、バスは徐々にですが活発に、かつ行動範囲を広げ、ルアーにも果敢にアタックしてきます。そんなときはブリッツマックス系→レギュラーブリッツ系→タイニーブリッツ系 or HPFクランク→ハイカット、阿修羅系という使い分けで、回復度合いによってルアーをローテーションしていきます。

ルアーのスピードについてですが、水質が回復していくほど私はより速くしていきます。秋はスピードにシビアである場合も多く、ときに両極端なスピードを試すことで魚の反応が得られることも。特にクリアアップしたときは、高速巻きが効くこともあります。

またカラーの使い分けでも、各ルアーの強さを調整しています。濁りや日照による基本の使い分けは変わりませんが、強い方からチャートor白→ゴールド→パールorシルバー→リアルカラー&ゴーストと位置付けています。

いろいろとご紹介しましたが、裏を返せば秋のバスはルアーの選り好みも少なく、いろいろな巻き物系で釣れるはず。ナイスコンディションのバスがバワフルにひたたくていく衝撃は、今もなおお病み付きです!!

随一の爆音で水面まで誘き出す!!

O.S.Pバス02ビート by 富村貴明

O.S.Pバス02ビートの特徴と使い方

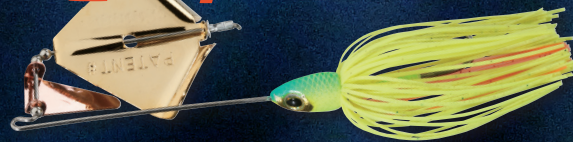
02ビートの最大の特徴は、なんといっても水面に響き渡るトルクあるサウンドでしょう。真鍮製のクラッカーは、最大限の音量と音質が得られる構造です。ブロップのサイズやワイヤー径、ヘッド重量など非常にバランスがよいので、キャストもしやすくさまざまな場面に対応できます。また、このクラッカーによって直進性にも優れるため、初心者でも扱いやすいバスベイトと言えます。

使い方ですが、02ビートはバスに気づかせて引き寄せる力は十分ありますので、広範囲に線で切っていくようなイメージで引くといでしょう。思いもよらない所からスッ飛んできてバイトすることも多々あります。引くスピードについては着水後、なるべく早くリトリブを開始し、浮き上がったからは基本的に一定速度。ヘッドが横を向かずブロップから飛沫と音が安定して出る巻きスピードと、水面からのベストなラインの角度を、ロッドティップの位置で調整しましょう。

O.S.Pバス02ビートの出しどころ

霞ヶ浦水系では、基本的に水深1m未満のバ

ンク周辺のシャローでの使用が多いですが、沖のシェードにバスがサスペンドしているような時は、1.5~2.0mにある杭などの縦ストヤ、沖のブイやロープ、浮葉植物や台船のような浮遊物に対しても使用します。狙いが岸際の護岸やアシなどであればなるべく並行に引き、杭や沈み物の上、独立したストラクチャーでは着水点を少し先にして、引き波や音をなるべく長く、広範囲に届けるように心掛けます。時期はこれから先、11月中旬頃までが出番。特に秋はワカサギなどのベイトがリンクするタイミングがやはりよくなります。表層系全般に言えますが、日差しが弱い朝や夕方、曇天模様の際は非常に効果的です。晴天のハイライト時であれば、護岸やアシなどがつくり出すシェードをタイトに狙います。



O.S.Pバス02ビートでデカバスを獲るための秘密

秘密と言うと大袈裟ですが(笑)、私の場合、ボートでも岸でも極力ロングキャストを心掛けます。特に警戒心の強い大きなバスは、人の気配に敏感で穏やかで静かな水面では、最初のインパクトにリアクショナルに襲いかかることが多いです。ロングキャスト対策として私は、素材が軽いナイロンラインを使用しています。キャスト中、空中にラインが漂う時間が一瞬で、ラインがフロロより沈みづらいので、着水から浮き上がりまでの時間短縮になります。また、浮き上がったからのナイロンラインのたるみの方が、水面からのベストな角度がつけやすくなるのでオススメです。ちなみに私はナイロンの16~20ポンドを使用しています。



広大な水域から確実にバスを呼ぶ!

YAMATO O.S.Pシリーズ by 森田哲広

YAMATO O.S.Pシリーズの特徴と使い方

広大なフィールドにおいてロングキャストが効き、ハイアピールで広範囲もしくは深場からバスを誘い出すことは必要不可欠。YAMATO O.S.Pシリーズは強い水押しとサウンド&スプラッシュを確実に発するために、さまざまな画期的な構造を装備しています。

中でも私はタングステンウエイトとボーン素材とのボディ内部でのヒット音でさらにアピールを強めたYAMATO O.S.P SPEC2を多用。上下に配されたラインアイの下側にナイロンの20lbを直結し、左右に振り幅の大きいゆったりとしたドッグウォークで使います。例えばキャスト距離が25mでも、ジグザグに大きく探った軌道は直線に伸ばすと30mにも35mにもなる。そんな振り幅の大きなドッグウォークを可能にしたセンターボードの性能を最大限に活用しています。広大なカナダモエリアではポーズを入れず、エビモのあるエリアでは塊の横でロングポーズを入れて、少しの波でも発するウエイトサウンドを生かすという使い方も効果的です。



YAMATO O.S.Pシリーズの出しどころ

秋のフラットシャロー&ミドルレンジではハイビッチャー3/8~5/8ozの水面直下の速巻きが有効になります。しかし条件としては強めの風や濁りが必要となります。そのようなエリアで風がないとき、濁りがないときに有効になります。もうひとつはパンチショットリグのような水面近くまで伸びたカナダモエリア。秋になると水温低下によりカナダモ内でもバスは浮き気味になります。例え4mレンジのカナダモの上でもYAMATO O.S.Pのハイアピールにより水面まで誘い出すことができます。

YAMATO O.S.Pシリーズでデカバスを獲るための秘密

ウィード、水質、そして風など、いろいろな条件がありますが、最も重要なのがブルーギルの存在。水面に大量に浮くギルの多いエリアの下には高確率でデカバスが潜んでいます。尾びれをヒラヒラと動かしてホバリングするギルを演出するために、リアフックをフェザーフックに交換するのも効果的。着水音について、特に日中の晴天は大きい方がいいです。着水音もひとつのアクションと考え、上から大きく落としたり、ときにはライナー気味にキャストしスキップするように着水させることも有効です。そこでは着水後、ロングポーズを入れるといいですね。個人的にカラーはチャート系やゴースト系が秋の実績が高いです。



驚きの結果をもたらす巻き物の新境地!

O.S.Pブレードジグ by 松村寛

O.S.Pブレードジグの特徴と使い方

O.S.Pブレードジグは春も夏も釣れますが、秋こそ、その効果を発揮します。秋といえばスピナーベイトが定番ですが、あまりにも誰もが使い続けると反応が悪く感じることがあります。以下、O.S.Pの解説より。『スピナーベイト等にバイトしないタフな状況の中で、想像の域を超えて驚きの効果を発揮する。また、バスが散っている時などは、どのルアーよりも効率的にバイトに持ち込める。ブレードジグは他では代用の効かない独自のアピール力によってタフなバスをも反応させる切り札である(一部省略)』。まさにこれです。今まで使っていなかった人ほど驚くことが必至のルアーです。使い方については基本的に投げてただ巻き。表層に見える速度で引いてきます。意外なのはとんでもないところで食ってくるという点。はっきり言って予測できません。例えば消波ブロック帯に向かってタイトに投げているにも関わらず、ボート際でピックアップの時に食ってきたり、岸からブレイクラインが10m以上離れているならかなシャローでは、岸際でなく沖めで食ってくるので気が抜けないルアーです。



O.S.Pブレードジグの出しどころ

夏の終わり頃から晩秋まで、バスがワカサギなどのベイトを追って広く散っていて、カバーに依存していないと感じられるときに使います。スピナーベイトも同じような状況ですが、ブレードジグにはより表層でしかも速く引くと効果があるように感じます。よって、とにかく広い範囲を素早く探りたい時にし出番となります。

O.S.Pブレードジグでデカバスを獲るための秘密

デカバスが釣れる時というのはやはり小雨が降っていたり、ローライトだったりといかにも巻

きが効きそうな時が多いです。とにかく広範囲に流すことで確率を上げる感じです。一撃で仕留める、というよりは流しているとき突然「ドン!」と言った感じでくるので、信じて使い続けるのが一番のコツではないかと思えます。あと最大の秘密は巻きスピード。考えさせる時間はない、と言う感じでハイギアのリールで速く巻くことで、他のルアーに反応しないデカバスを釣ることが可能です。



ただ巻くだけで勝手に仕事をしてくれる!

ブリッツ by 山添大介

ブリッツの特徴と使い方

ブリッツは初心者の方からトーナメントまで、どなたでも非常に扱いやすく釣れるクランクベイトです。独自のハニカムスーパーHPボディ(PAT.)と、HPスラッシュビュルは超ハイビッチなアクションを生み出します。またウエイトを低い位置で一点固定しているため、泳ぎ出しが非常に速く、スローリトリブからファーストリトリブまで、質のいい安定した泳ぎを見せます。セミフラットボディによるフラッシングと波動は、適度なアピール力を兼ね備えているので、クリアウォーターからマッドウォーターまでフィールドのタイプを問わず活躍します。

使い方については基本的に投げて一定の速度で巻くだけ。さらにストップ&ゴーやリトリブの速度を変えることで魚の反応が変わることもあります。また、杭などのストラクチャーにコンタクトするようにトレースコースを調節したり、泳ぐレンジを意識しながらリトリブをすることでさらに釣果がアップすると思います。

ブリッツの出しどころ

はじめて訪れる釣り場や、広いエリアをスピー



ディにチェックするサーチベイト的な使い方から、バスが身を潜めていそうなレイダウンやオダ、棧橋、杭などのカバーランキングまで幅広く対応します。基本的に、朝夕のマヅメ時のバスがフィーディングに入るタイミングや、風が吹いているとき、曇りや雨といったローライトコンディションで魚がカバーから離れてシャローフラットやブレイク付近で行動するような状況で効果を発揮しますが、あえて晴れた日中でカバーのシェードを狙うこともあります。フィールド全体がウィードに覆われているなどの特殊な場合を除いて、ブリッツを引けるスペースがあればどこでも可能性がありますね。

ブリッツでデカバスを獲るための秘密

デカバスを獲るための秘密はこれとあってあり

ません(笑)。特に難しい操作などの必要はなくブリッツが仕事をしてくれるからです。大切なのは、とにかくブリッツをフィールドでたくさん投げることです。そこでブリッツの特徴を掴み、自分なりのブリッツの出しどころを見つけるのがとても大事だと思います。そして、自分で感じたタイミングのここぞと思うエリアでブリッツをキャストすれば自然と魚から答えが帰ってくるはず。夏も終わり、これから魚も各所に散らばる傾向にあり、ムービングベイトが活躍します。ぜひともこの秋は、ブリッツを投げまくってその威力を体感してください。

